

飛騨市まちづくりレシピ

まちづくりって特別なことじゃなく、みんなの暮らしがちょっと豊かになる活動。
飛騨市内で活動されているまちづくり団体を紹介していきます。
気になる活動があれば、気軽に参加してみませんか？

福祉は楽しい！
誰もが共に生きる飛騨市に。

社会福祉法人 吉城福祉会
障がい者自立支援施設

いこいのいえ たにくち ひろあき
憩いの家 谷口 博亮さん



▲ここでみんなで作業しています。



▲クロモジと高麗人参入りの入浴パックを開発



▲大変なこともあります、いつも笑顔で！

昨年から飛騨市で始まった薬草と福祉の連携事業『草福連携』ってご存じですか？。その事業の中核を担う『憩いの家』は古川町内を見渡せる下気多地区にあります。ちょっと気になる飛騨市の福祉や障がい者支援について、開所時から関わる、吉城福祉会の谷口博亮さんにお話を伺いました。

谷口さんは古川生まれ。幼少の時はお両親のお仕事で関西に行っていたそうですが、小学校からは古川で育ち、地元が大好きだそう。「高校卒業後は、介護の仕事をしていた母の影響で、福祉の仕事を目指して関の短大に進学しました。介護の資格も取得しましたが、もう少し幅を広げて勉強したいと4年制の大学に編入しました。」

ゆくゆくは地元の古川で働きたいと思っていた谷口さん。2008年に転職が訪れます。

「学生時代からヘルパーのアルバイトを始め、そのまま岐阜で就職しました。岐阜や名古屋では多くの重度の障がいを持つ方がヘルパーなどの助けを借りながら一人暮らしをしたり、力強く生きていたんです。そのサポートをする仕事ができると楽しくて。でも、当時の飛騨には「バリアがある」そんな声を聞いて。古川ももっとみんなが当たり前に住みやすい町になったらいいなと思っていた時、実家のすぐ近くに障がい者支援施設ができることを知って帰ってきました。」

そんな熱い思いで、当時、飛騨市にはまだあまりなかった

障がい者就労支援施設の職員となった谷口さん。カレンダーを封筒にする作業や、麻紐を編んで作るヘンプアクセサリー、農作業や、もみ殻燻炭の製作など、様々な作業を利用者の方と続けてきました。「現在は18～65歳、25名の方が登録されています。それぞれ得意な作業も違うので、納期調整は難しいですね。憩いの家で訓練をして、その後一般企業に就職する方もみえます。そういった自立につながる後押しが出来た時は本当に嬉しいですね。」

そして昨年飛騨市から「ヨモギの入浴パックを一緒に作りませんか？」と持ち掛けられました。「農作業、乾燥、袋詰めなど、利用者さんが出来るのがたくさんある。新しい試みとしてすごく可能性があるなと感じました。」今年は作付面積を増やし、利用者さんとボランティアや市の職員も一緒に植え付け作業を行いました。

「障がいと言っても様々な方がいて、まずは関わる、知ってもらえることが大事。誰もが当たり前で共存する社会であってほしい。何より自分はこの仕事が好きで、利用者さんの目標が叶ったときは本当に嬉しいです。」終始笑顔で、福祉やまちづくりの楽しさ、人と関り合って生きる喜びを語ってくださった谷口さん。彼のお話を聞くと、福祉や介護の印象が大きく変わるはず。今後も情報発信や協力者の募集を呼びかけていくそうですので、ぜひ注目してみてくださいね。

基本情報

開 所：2008年4月

主な活動：

障がいをお持ちのご利用者さんへ就労の機会を提供し、自立支援につながるお手伝い。

▼皆さんの協力もお待ちしています！



▲いいヨモギが育ちますように。

飛騨市のまちづくり最新情報はこちら▶

<https://www.city.hida.gifu.jp/site/hidaplus/>

